

市内出土の遺物から 縄文時代を読み解く



精巧に作られた土器（右奥の3点）とともに並ぶ「下手な土器」

茅野市尖石縄文考古館 常設展示

茅野市尖石縄文考古館では、市内の遺跡から出土した縄文時代の土器や土偶、石器、装身具といった遺物を常設展示している。2体の国宝土偶「縄文のビーナス」と「仮面の女神」をはじめ、約2000点を並べている。

精巧な作りと造形美が際立つ遺物の一方で紹介しているのが「下手な土器」。高さ10センチ前後と小ぶりで、少々いびつで作りが雑な形と焼きの甘さが感じられる。試作品という可能性もあるが、技術が未

習熟な年齢層が土器作りを教わり始めた頃の作品ではないかとも考えられている。縄文時代の子育てや技術伝承の断面が、「下手な土器」から見て取れるのかもしれない。

かわいらしいサイズの「ミニチュア土器」も展示している。周りに並ぶよく似た大きいサイズの土器をまねたのではないかと思われる、単純な形で、子どもが作ってままと遊びに使ったのではとも推測される。このほか技術的に洗練されていない石器もある。